

きんもくせい

病院だより

vol.86

令和2年
7月号

診療科から

子どものアレルギーと向き合う





子どものアレルギーと向き合う

はやの さとし
小児科部長 早野 聡 医師

「初めて家族そろって、レストランに行けました」「みんなと一緒に、給食を食べられました」「お肌を搔かずに、鼻水で悩まずに、よく眠れるようになりました」、こんな感謝のお言葉を診察室で頂くことがあります。大変ありがたく感じると同時に、ご両親がいかにお子様のアレルギーに心を痛み、大変な日々を過ごされているかを実感致します。小児科は、救急救命やNICUで、命のやり取りをすることも多い科ですが、それと同じくらい、アレルギー治療は、お子様のQOL（生活の質）を大きく改善できる、重要な診療だと考えています。

最近、小児のアレルギー診療は、大きく変化しています。食物アレルギーは、かつて原因食材（鶏卵・乳・小麦など）を「避ける」ことで予防・治療できると思われましたが、現在は反対に「早期に食べることで予防と治療に重要であると考えられています。つまり、アレルギー治療は、小さいうちから始めた方が良いということです。乳児期からアトピー性皮膚炎（湿疹）を治療したり、適切な離乳食指導を受けることで、重症化を防いだり、新たなアレルギー発症を予防できる可能性があります。また、アレルギー性鼻炎・花粉症で悩んでおられるお子様には、舌下免疫療法という新しい治療もよく効きます。アトピー性皮膚炎は、プロアクティブ療法という治療法で、ステロイド外用薬の副作用を確実に防ぎ、スムーズに減量・中止できる確率が高まりました。重症の気管支喘息やアトピー性皮膚炎には、切り札とも呼べる注射薬が登場しています。



▲原因食材を0.1g単位で計量



▲小児アレルギーエデュケーター(PAE)と早野医師(写真中央)

小児アレルギー疾患を、このように積極的に治療できる時代になったことは、嬉しいことです。一方で、アレルギー治療は、食事療法やお薬などを、数ヶ月から数年にわたって続ける必要がありますから、これはお子様にとってもご両親にとっても大変な負担です。長い治療を共に頑張るために、なぜ治療をお勧めするのか、治療のデメリットは何なのか、お子様とご両親にしっかりと説明して、理解して頂くように努めています（ときに難しいお話もしますから、「こんなこと聞いて良いのかな？」と迷ったら、どうぞ！遠慮無くどんどん質問して下さいね）。このため当院には「小児アレルギーエデュケーター（PAE; Pediatric Allergy Educator）」という、小児アレルギーの専門知識を持つ看護師が在籍しており、アレルギー専門医と協力して、食物経口負荷試験や、アトピー性皮膚炎などの教育入院、赤ちゃんへのスキンケア教室などを通して、お子様とご両親をサポートしています。

小児アレルギー疾患でお困りでしたら、赤ちゃんから高校生まで（ときに成人された方まで）、ぜひ小児科へご相談下さい。

「日々勉強の毎日です」

私が看護師になって3年目が始まりました。4階東病棟では、小児科・皮膚科・耳鼻いんこう科・歯科口腔外科と幅広い疾患の患者さまが入院されています。

私は重症心身障害児の看護について関心を持っています。言葉で訴えることが出来ない患児に私は何ができるのか。患児は今何を思っているのか、何が辛いのかを考えながら関わらせていただいています。また、患児たちは環境の変化によるストレスを感じやすいため、出来る限り自宅と同じように入院生活を送ることが出来るよう援助をしています。



しかし日々の看護を行っていく中で、もっとこうしてあげられたら良かったと反省することも何度もありました。それでも患児・ご家族から感謝の言葉をいただくことがあり、今でもその言葉を忘れずいます。これからもいただいた感謝の言葉を糧に看護師として成長したいと思います。

担当看護師として受け持たせていただくようになってからは、患児にとって今、優先度の高い看護は何かよく考えて行動に移せるようになりました。まだまだ学ばせていただくことが多いです。今年は患児の苦痛を考え、その苦痛を軽減できるように援助したり、ご家族の悩みなどを傾聴したりし、病状の変化に気づけるアセスメント能力や家族との関わり方、退院後の生活を見据えた看護について勉強をしていきます。

4階東病棟 佐藤真由奈

静岡県腎臓バンク寄附型自動販売機が設置されました



当院では、臓器移植に関して、様々な職種のスタッフが一丸となって患者さまやご家族の意思を最大限尊重し対応しています。

この度、当院1階エレベーターホール横に、県内の公立医療機関として初の静岡県腎臓バンク寄附型自動販売機が設置されました。移植医療のシンボルカラーである緑のラッピングが施されています。

飲み物を1本買うごとに、1円が静岡県腎臓バンクに寄附されます。



安心して受診していただけます～受診控えにより重症化するケースが増えています～

新型コロナウイルス感染症の影響で病院への受診を控えていた皆さん、体調に変化はありませんか。がん、糖尿病、心疾患、腎臓疾患等をお持ちの方で定期的な受診が必要な方は、受診をお願いいたします。

医師や薬剤師、看護師と直接話をしたり、定期的な検査を行うことで、小さな変化にも気づけますし、不安も解消することができます。新型コロナウイルスの影響で延期していた「手術」や「検査」も通常に戻していますのでお気軽にご相談ください。

当院ではあらゆる院内感染対策を講じております。安心して受診してください。



第30回医療市民講座～がん講習会～のご案内

皆様の安全を第一に考え、感染防止対策を講じたうえで細心の注意を払い開催いたします。

定員100名（予約制・先着順）

入場料無料

◆日時 7月18日（土）午前10時～正午（受付9時30分～）

◆場所 当院 3階 大会議室

◆演題 ①「がんのおはなし～がん発生から腸活まで～」

講師：川合 亮佑 医師（外科部長）

②「上部消化管内視鏡治療」

講師：細野 功 医師（消化器内科部長）

③「がん相談支援センターのご案内」

講師：中川 穂波 看護師（がん相談支援センター長）

④「新型コロナウイルス感染症～当院の対応と対策～」

講師：宮地 正彦 医師（企業長兼院長）

◆申込み 7月15日（水）までにホームページ専用フォーム、または問合せ先へ電話、FAXのいずれかにて。申込用紙を院内専用BOXにお入れいただいても申し込みできます。申込用紙は院内ほか、市役所等で配布しています。

◆問合せ 経営戦略室 電話：0537-21-5555(代) FAX:0537-28-8971(代)



詳しくは
病院ホームページを
ご確認ください。

人間ドック等の予約受付と一部検査を再開しました

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、人間ドック等の予約受付と一部検査を中止しておりましたが、5月18日（月）より予約受付および一部検査を再開いたしました。

受診者様の安全と感染拡大防止対策を第一に考え、細心の注意を払い対応させていただきます。ご不便・ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。



◆問合せ 人間ドック・健診センター 電話：0537-28-8028（月～金9:00～16:30 土日祝・年末年始を除く）

※現在、回線が混み合い、電話が繋がりにくい状況となっております。ご迷惑をおかけし申し訳ございません。

5月の 診療実績

1日あたりの患者数		病床利用率	67.6%
入院	338人	平均在院日数	10.3日
外来	1,064人	手術件数	319件
紹介率	80.0%	救命救急センター受診者数	1,161人
逆紹介率	96.6%	救急搬送件数	350件

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL 0537-21-5555

